



川でむすぶ

HAPPY
NEW YEAR!
2026
今年もよろしくお祈りします 午



<事業報告>

- ①好間第4小学校学習支援 (6/4①回目・7/16②回目・8/27③回目・12/13④回目)
- ②第3回防災・水辺教室 (7/27)
- ③放射能除染研究発表会 (8/27~28)
- ④第11回夏井川かわくんだり (8/31)
- ⑤第10回パルシステム福島水辺の観察会 (9/6)
- ⑥水との旅 (9/13)
- ⑦福島県地方流域水循環協議会 (11/20)
- ⑧第2回夏井川流域協議会 (11/27)
- ⑨新川秋の植栽 (11/30)
- ⑩NPOいわき環境研究室活動発表会 (12/13)
- ⑪清掃 (8月~12月)

<コラム>

名誉会員佐藤忠さんを偲んで

<その他>

助成報告

令和8年新年のご挨拶

代表世話人 桶田隆司

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

2025年も「水」をめぐる出来事が、私たちの生活や安全に強い影響を及ぼしました。世界では、インド洋北部の海水温上昇が原因とみられる猛烈な雨を伴うサイクロンにより、マレーシア、タイ、インドネシア、スリランカなどで1,600人以上の死者・行方不明者が報告される大規模洪水が発生し、気候変動が極端気象を強めているとの分析が発表されています。

日本国内でも、8月6日から8月12日にかけて停滞した前線の影響で、鹿児島県では24時間雨量が500mmを、福岡県熊本県では400mmを超える大雨が降り、北日本から西日本の広い範囲で大きな被害が発生しました。また、台風や温帯低気圧の影響で、静岡県吉田町では9月に最大風

速75メートル級の竜巻に伴う被害が発生し、静岡・中部～関東甲信地方に大雨や局地的な強風をもたらすなど、極端な気象現象が各地で発生しました。これら豪雨の激甚化・頻発化が進むなか、流域治水という考えが一層重要になってきています。

当会が目指す「住民自らが流域の治水・利水・環境を考え、提案し、行動する」という設立趣旨は、このような時代の要請とも深く結びついています。R7年1月には、流域治水協議会を通じてや関係者の連携強化を進めてまいりました。秋（10～11月）には、令和5年9月台風13号の被害を踏まえた「夏井川水系河川整備計画」の変更が進められ、会として意見を述べることにより、流域住民の声が今後の治水・環境保全計画に反映される大きな機会でありました。

会としての昨年の活動では、水質一斉調査、河川清掃、小学校学習支援、防災講座、川下りイベント等を通じて、流域の自然や川との関わりを深める機会を多くの皆様と共有しました。また、「夏井川河川防災ステーション」を拠点とした活動は、教育と防災啓発の場として着実に存在感を高めており、さらに福島県が進めている防災ST前の階段護岸がこの3月には完成すること。完成後の活動にワクワクしております。

新しい一年も、私たち一人ひとりが「見て・触って・感じて・考える」行動を続け、点が線となり面となる活動の輪を広げてまいりましょう。

そして、「子どもたちの笑顔が見える夏井川」を目指し、地域の安全・安心と豊かな環境づくりに取り組んでいきたいと思えます。

本年が皆様にとって、そして流域の未来にとって実り多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

<事業報告> ①好間第4小学校学習支援

吉田真弓

NPOいわき環境研究室と共に、好間第四小学校の学習支援活動を4回行いました。

■第1回 好間川流域探検

6月4日、全児童22名が参加し、好間川源流～夏井川との合流点～夏井川河口までの流域探検学習を行いました。

高学年の児童は、初めて伏流水が出てくる源流まで足を延ばし、森林土壌から好間川の水がしみ出てくるようすを観察することができました。低学年の児童は、溪流でさまざまな水生生物を採取し、貴重な生物を含め、サワガニ、カワゲラ、カゲロウ、トンボのヤゴ、ヒラタドロムシなど11種類を観察することができました。今回は、6年生が現地で水質分析を行い、源流は、透視度「100cm以上」、COD「2.5mg/L」、においては「無」で、とてもきれいな水であることを理解できたようでした。

合流点では、バスの中から夏井川に合流する好間川のようすを観察しました。その後、夏井川が太平洋に注ぐ河口を見て新舞子海岸へ移動し、普段は見ることができない海辺の景色を楽しみました。午後は夏井川河口公園へ移動し、カニ釣りを体験しました。今回、児童全員で捕獲できたクロベンケイガニは13個体でした。ワンド内の水質は、透視度「66cm」、COD「6mg/L」、においては「弱」でした。

今後の好間川の学習に、源流から河口までの探検を思い出し、役立ててほしいです。



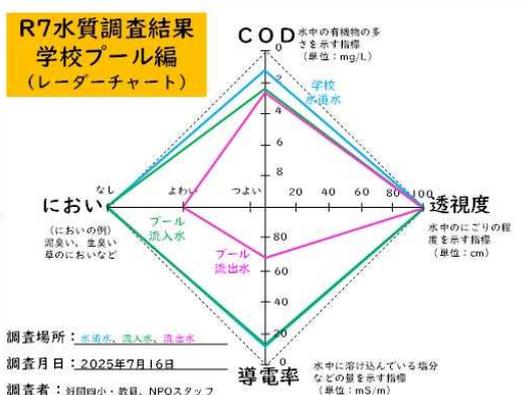
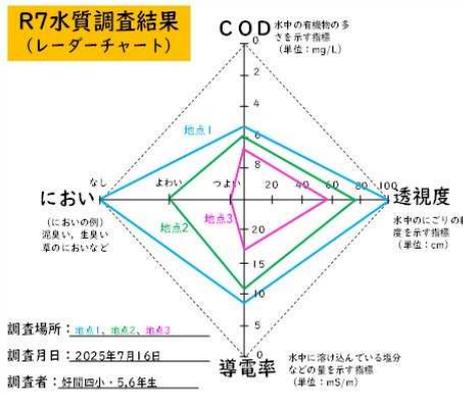
■第2回 好間川の水環境調査

7月16日、5、6年生10名が好間川の水質調べを行いました。当日は、降雨のため、河川での水生生物調査は延期して水質測定のみを実施しました。

源流の雨降山（地点1）、好間四小前（地点2）、夏井川合流前平川橋下（地点3）と事前に児童から要望があったプールの水質についても測定しました。

COD、透視度、導電率、においの測定項目についての全体説明の後、班ごとに測定を行い、結果をデータシートに記入し、平均値の計算やレーダーチャートにまとめることができました。レーダーチャートを用いて、好間川の地点1から地点3の水質の状況を確認することができました。児童たちから、上流から下流に向かって水質が悪化する傾向やその原因として家庭排水などの影響があるのではないかといった意見が出されました。

最後のまとめでは、各調査項目が示す意味についてふりかえりを行うとともに、各地点の水質変化のもとになる川のごとの原因について再度考えてもらいました。また、プールの水が学校の水道水と水質の違いがほとんどなかったことを確認し、プールの水があまりよごれていないことがわかり安心したようでした。



■第3回 水生生物調査・水あそび

8月27日、5、6年生による水生生物調査と、全校児童による水あそびを行いました。まず、5、6年生が前回天候不順で延期となった水生生物調査を行いました。最初に川幅、水深、流速の測定を行い、川のどの部分が深くて、流れが速いか確認しました。続いて、網で石の下や川岸、水際の草むらなどに生息する生きものの採取を行いました。採取後、同じ種類の生きもののだと思われる個体を児童自ら分けて、分類することができました。生きものの種類について説明を受け、今回は24種類も採取し、昨年度の22種類よりも多くの生きものを確認できたことがわかりました。

その後は、1~4年生も合流して水遊びを行いました。水遊びでは最初に夏井川流域の会のスタッフから、川で遊ぶ際の注意について説明を受けました。おぼれた時の体の浮かせ方、救命浮き輪の投げ方などについて体験を通して学びました。最初は、おそろおそろ川に入っていた児童たちでしたが、次第に楽しくなり何度も川流れを体験していました。川流れの後には、学年ごとに笹船レースを行いました。工夫しながら笹舟を作り、水の流れに乗りやすい出発点を探し、1位を目指して競争を楽しみました。



好間川の水質調査地点



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
川幅B(m)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0
水深H(m)	0.05	0.20	0.25	0.25	0.30	0.27	0.25	0.00
断面積A(m ²)	0.05	0.25	0.45	0.50	0.55	0.57	0.52	0.13
流速(m/秒)	0.33	0.33	0.33	0.50	0.67	0.67	0.50	0.33
流量(m ³ /秒)	0.02	0.08	0.15	0.25	0.37	0.38	0.26	0.04

好間川の河川断面・流速調査結果

調査河川名	好間川		採取生物	
調査地点名	好間四小前		生物名	数
調査イベント名	好間川を学ぶ		アブラハヤ	6
調査者氏名	好間四小5,6年生		カワニナ	3
調査日時	2025年8月27日		モノアラガイ	1
天気	はれ		サワガニ	15
水温(°C)	22.0		ヌカエビ	10
川幅(m)	15.0		クロスジヘビトンボ	3
生物採取場所	右岸側・中央・左岸側		ヘビトンボ	7
水深(cm)	20		コヤマトンボ	1
流速(m/秒)	0.5		サナエトンボ	4
川底のようす	○石・○小石・砂・どろ		コオニヤンマ	2
水のようす	にぎり: 強い・○弱い		カワトンボのヤゴ	3

水質	No.	指標生物名	数	印	水質	No.	指標生物名	数	印		
										水質階級	水質階級
きれいな水	①	カワガタ類	3	○	きたない水	①	ミズカマキリ	1	○		
	②	ヒラタカゲロウ類	1	○		②	ミズムシ				
	③	ナガレトビケラ類				③	タニシ類				
	④	ヤマトビケラ類				④	シマイビル				
	⑤	アマキ類				⑤	ニホンドロソコエビ				
	⑥	ヨコエビ類				⑥	イソコツブムシ				
	⑦	ヘビトンボ類	7	●		⑦	ユスリカ類				
	⑧	プヨ類				⑧	チョウバエ類				
	⑨	サワガニ	15	●		⑨	アメリカザリガニ				
	⑩	ナミウズムシ				⑩	エラミズ				
ややきれいな水	①	コガタシマトビケラ類			とても汚い水	①	サカマキガイ				
	②	オオシマトビケラ類				水質階級の判定					
	③	ヒラタドロムシ類	2	○		水質階級					
	④	ゲンジボタル				I	○と●の合計	4	3	1	0
	⑤	コオニヤンマ	2	○		2	●の個数	2	0	0	0
	⑥	カワニナ類	3	○		3	Iと2の合計	6	3	1	0
	⑦	ヤマトシジミ				その地点の水質階級の判定					
	⑧	イシマキガイ				I					

その他気づいたこと
採取生物はほかに、ミズスマシ2、ナベブタムシ20を確認。CODバックテスト：4mg/L

記入と水質判定の方法
1) 見つかった指標生物の欄に○印をつける
2) 数が多かった上位から2種類は●印にする
3) 水質階級ごとに、○と●の合計をIに記入する
4) 水質階級ごとに●の数をIIに記入する
5) 水質階級ごとにIとIIの合計をIIIに記入する
6) IIIの合計数が最も多い階級をその地点の水質階級とする

■第4回 環境教育—水防災学習

11月5日(水)、5、6年生向けに、模型を使った体験学習と、ワークシートを活用して学びを深める学習支援を行いました。

まず、夏井川流域のジオラマを使って「分水界と流域」について説明を受けた後、自ら考え理解したことを自分の言葉で説明できるようになりました。次に、「森の保水力」について、川の模型を使って降水量を測る実験を行いました。データを取り、その結果から、森の保水力と洪水を防ぐ森のはたらきを理解する難しい内容でしたが、協力して実験を進めることができました。最後の「川の流れ実験」では、雨の強弱や川の蛇行を変えると、浸食される場所や土砂崩れが起こ

る様子が違ってくることを模型で体験しました。この実験を通して、侵食や土砂崩れを防ぐ堤防の重要性にも気づくことができました。まとめとして「洪水時の対応」について、危険を避け、命を守るために、日頃よりハザードマップや避難場所について家族で話し合っておくことの大切さを学びました。避難するときに持っていくものをグループで相談しながら自分の考えをまとめ、発表することができました。災害が自分にも起こることとして考えることが、災害時の自助、共助につながることも学びました。

最近、洪水等の災害が世界中で起き、その度に、大きな被害が出ています。そのような中、自分の住む場所を流域としてとらえ、上流から下流まで川の良いところや危険なことを学べるこの「川の学習」は、命を守る行動につながる大切な体験です。これまでの4回の学習で体験・実験したことを、ぜひ家族との話題にあげて、もしもの時に全員が安全に行動できるようになって欲しいと思います。



<事業報告> ②第3回防災・水辺教室

阿部孝男

第3回水辺・防災教室を令和7年7月24日に夏井川河川防災ステーションで開催しました。

はじめに行った座学では、近年頻繁に発生する豪雨など自然気象災害に関する防災観点からの注意点や過去の災害事例での今後に生かす反省点などの講義を行ったほか、私たちの会で実践している川での活動する際の水辺での安全対策・行動意識について、自身の身を守るためのライフジャケットの重要性や万が一に備えての注意点などの講義を行いました。

続いて河川を中心とした流域模型実験では、流域模型と砂防堰堤模型に実際に水を流し河川の増水による河岸の崩壊や家屋の流失など、どこが安全でどこが危険かなどを再現し、砂防堰堤模型では土石流の発生する様子を再現し、参加者のみなさんは非常に興味深く、特に子供たちは歓声を上げながら何度も実験を繰り返していました。



その後は近くの新田川で水生生物調査を行ない、昆虫が成虫になった時期だったか確認できた種類が少なかったのですが、ヤゴ、ガガンボ、ドジョウ、カエルなどを確認し放流しました。

私たちの会では年間を通して防災ステーション周りの草刈りを行っていますが、川へのアクセ

スが困難であることも課題としてありますので、今後はもっと川に近づきやすくなっていくかと思えます。

川での活動は何よりも安全対策・防災意識が大切になりますので、この水辺・防災教室は今後いろいろな工夫をしながら続けていきたいと考えています。

残念ながら今年も昨年に続き参加者が少なかったのですが、来年はもっと周知に力を入れたいと思います。参加者の皆さんお疲れさまでした！



<事業報告> ③放射線除染研究発表会

橋本孝一

去る8月21日・22日の2日間にわたって、福島市の「パルセいいざか」を会場に、標題の発表会が開催されました。当会では、主催者側からの参加呼びかけに応じて初めて参加しました。当日は、桶田隆司代表、阿部孝男副代表と橋本の3人が参加しました。

◆研究発表会では、「除染・減容化、環境再生等」の講演やセッションに分かれての研究発表等の他、企業展示・企画展示コーナーも多数設けられていました。当会では、毎年6月に、夏井川水系の27地点で、会員が分担して水質分析を実施しており、特に、2011年の東日本大震災時の原発事故以降は、水際の土砂の放射能濃度も測定してきておりますので、それらのデータを中心に、会のパンフレット等も活用して活動内容の紹介をおこないました。また、鳴き砂の実演コーナーも設けました。隣のブースには、NPO 法人いわき環境研究室のブースがあり、同会の和田隆さんが、同研究室の活動内容を紹介していました。

◆学会主催の行事で、専門的なテーマでの研究結果等の交流が主体でしたので、開幕当初は、来場者の反応が気になりましたが、息抜きにもなったのでしょうか、2日間で、50名ほどの方々が当ブースを訪れて下さいました。中には、福島高専から参加されていた三浦先生や研究室の学生さんたち、地元福島高校の生徒さん方も訪れて下さり、夏井川での放射能分析結果等についていろいろな質問等を頂きました。難しい質問に対しては、土砂の分析を担ってくださっている和田さんに対応して頂き助かりました。ともあれ、今後も、同学会は、福島県内でも開催されるとのことですので、その折には、積極的に発信し、情報交換を進める必要があるのではないか、そんなことを話し合いながら帰途についた次第です。



<事業報告>④第11回夏井川かわくだい

佐藤雅子

2025年8月31日（日）第11回夏井川かわくだりを開催。参加者は38名。

カヌー、ボード、サップボード、アクアボールなど、夏井川河口右岸親水公園にて楽しみました。昨年参加した子どもが、今年はオール捌きもあざやかに、カヌーの乗り方を教えるような成長ぶりで、来年が期待されます。夏井川上流域の小野町の皆さんには、ボードや昼食のこと、野菜配りなど、たくさん上流から積んで来てくれて、暑い中でも愉快地過ごすことができました。

私たちに夏井川流域NWは、自然とのふれあいが活動の主点ですが、今回はその自然の驚異を知らされた「川下り」でした。

その①「酷暑」 当日は朝6時で既に27℃（いわき市平）、終日暑さ指数WBG Tが28以上31未満で、「厳重警戒」だったそうです。今後の行事開催は、異常気象の昨今、時期や規模、対策について要検討です。飲み物や塩飴を準備していたとはいえ、具合が悪くなった人がいなくて幸いでした。

その2「外来植物」 何しろ一番驚いたのは、川下りなのに川の水面が見えなかったことです。いつもの水辺、ボード発着場に水面が見えない。川はまるで陸上の芝生と見惑う一面の緑色。アオウキクサという水草が水面を覆いつくし、カナダモという藻が水中に茎を伸ばしているのです。夏井川本川近くまでの緑一面は、美しいといえませんが、草の中のボード漕ぎなど初めてのことでした。カづくでカナダモを押し分けて漕ぎました。アクアボールまでこの緑色の上に乗せ、ころがしたのです。中々体験できることではありません。外来植物は拡散力が強く全国的に懸念されています。いわき市でも鮫川・蛭田川でナガエツルノゲイトウが蔓延しているとのこと、対策が急がれます。

この日、私はカヌーで海と川の境目まで行ってみましたが、川側の水は塩味がせず、閉塞が続いていることを確認しました。その後、この河口にコアジサシがいた、という情報を得て、日本野鳥の会いわき支部の伊藤善政支部長に話しを聞きました。

その3「コアジサシ」 夏井川河口にかつてカモメの仲間のコアジサシが営巣していたが、今年7月に成長・幼鳥を確認。大きい方の雛は7月23日頃に見えなくなった。7月30日カムチャツカ地震で津波警報が出され、コアジサシがいたところは波に洗われていたが、観察で充分飛べることを確認していたので無事に巣立ったと思われる。コアジサシが16年ぶりに夏井川河口に戻り営巣したこと、津波が来た頃に旅立ったこと、自然の摂理が働いたように思われてなりません。

自然とのかかわり。人間の想像以上にその面白さがあります。かかわってみなけりゃわからない。また川で遊びましょう。



開会式・安全説明



渋滞している出発点



河口①



河口②



安全巡視員



木船で



昼食はBBQ



子どもたちに好評なカニ釣り



アクアボール

<事業報告>⑤第10回パルシステム福島水辺の観察会

田中博文

9月6日(土)小川公民館にてパルシステム福島水辺教室を開催しました。今年で第10回となります。参加者は33名でした。

小川公民館会場の都合により、午前中に下田川で水生生物調査と夏井川本川でカヌー体験、午後から講座と簡易水質調査となり、いつもの午前と午後が逆になりました。

水生生物調査では、昨日の少雨の影響で下田川が少し増水していたためか、水生生物の種類が少なかったもののチラカゲロウ、モンカゲロウ、ヒラタカゲロウ、ヒゲナガカワトビケラ、ヒル、ヤゴ(ヤンマ、コオンヤンマ、イトトンボ)、ドジョウが確認され、水質指標生物との照会の説明がありました。続いて公民館近くの夏井川本川に場所を移動し、川遊びとしてカヌー体験と、コロナ禍から7年ぶりのアクアボールも体験でき、子どもたちに喜んでもらいました。

午後からは公民館に戻り、河川水質保全、水辺安全対策等の講義を行ない、4班に分かれて①加路川、②夏井川小川公民館前、③夏井川平鎌田、④新川アリオス前の4箇所の簡易水質調査(COD、導電率、臭い、透視度)を行ないました。検査の結果、CODは4~5と大差なく、導電率は①~③は7~14だったものの④新川の値が46とやや大きく、臭いでは①以外は弱い臭い(コケ、土)、透視度は①・④が100cm以上、②が35cm、③が42cmと濁りが大きいという結果で、透視度以外は昨年第9回の結果と大体同じでした。

当事業は一般の親子を対象とした川の学習で、当会のキャッチフレーズである「子どもたちの笑顔が見える夏井川をめざして」を追求した、「夏井川に親しみ、安全に遊び、学ぶ」を実践する貴重な場です。来年も多くの参加者が体験できるよう期待しております。当会及びパルシステム福島の役員の皆様、大変お疲れ様でした。



最初に集合写真



水生生物調査



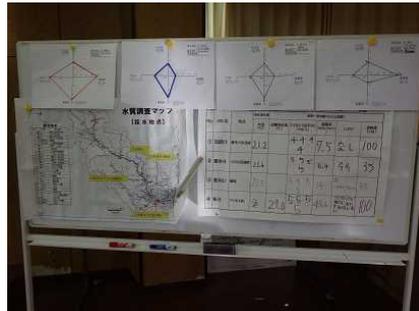
川遊び①



川遊び②



簡易水質調査



4地点の水質調査結果

<事業報告> ⑥水との旅

田中博文

水との旅とは、夏井川の水は上流から河口までどれくらいの時間で流れるのか、を検証するため、「夏ちゃんボール（：黄色の球）」を川に流してカヌーや徒歩でボールを追い、実際の時間と距離を計測しつつ、普段は見れない夏井川本線の川面から見た風景を楽しむものです。平成19年（2007年）滝根中学校からスタートし、少しずつつないできましたが、平成30年（2018年）を最後に中断していました。

9月13日（土）7年ぶりに水との旅を行ないました。今回実施した区間は、平成30年最後の回に実施した、川前キャンプ場から2km下った地点からスタートし、東北電力第一発電所を越えて1.2kmまでの区間を実施しました。

未踏破区間は、①9/13実施箇所から東北電力第三発電所、②平鎌田～河口、③滝根中学校から最上流の3区間が残っています。①を10月12日（日）に実施する予定でしたが、雨天後の増水で中止となりました。川に入るのが寒い期間は無理なので、来年に持ち越しです。（ホームページで案内します）



旅開始（夏ちゃんボール投入）



ボールを追う①



ボールを追う②



趣のある鉄道橋

<事業報告> ⑦福島県地方流域水循環協議会

桶田隆司

R7年11月20日、福島県各地方流域水循環協議会研修会に参加しました。

『各地方流域水循環協議会』って何よ？と思われる方もおられることでしょうか。この協議会は、浜・中・会津の各地方流域において、官民の関係団体が連携しながら、健全な水循環を回復し、維持するための取組みを推進していくことを目的に設置され、地方ごとに策定された流域水循環計画に基づき各種活動を行うものです。

夏井川は、浜通り地方流域水循環協議会に属しており、『森、川、里、街、海がつながる浜通り』として『福島県浜通り地方流域水循環計画』が策定されており、この計画の中に夏井川の各種活動が事例として掲載されています。

今回の研修会は、安積疎水土地改良区の方から、安積疎水の歴史や現在の状況の説明を受け、その後、猪苗代湖からの取水口である「上戸頭首工」、「田子沼分水工」を視察しました。



安積疎水水路図

安積疎水は、明治政府の国営第1号農業水利として完成し、明治19年に福島県に、明治21年に民間に引き渡され、明治24年に水利組合が設立された。昭和27年に五百川土地改良区を吸収合併し安積土地改良区に改組された。

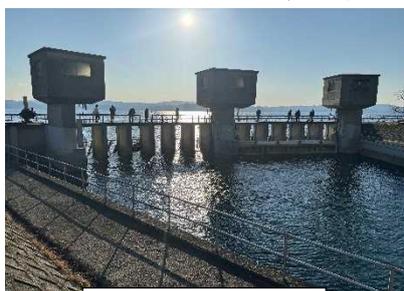
現在、受益面積 9,572ha、60基の頭首工、470kmの水路、4つのため池を使い、最大取水量 15.179m³/sの管理運営を、30人の職員と100人の管理人で行っているとのこと。

雄大な猪苗代湖から水を引く、先人の知恵と努力で、安積地域の発展がもたらされている疎水、改めて、すごい！としか言い表せないと思いました。いわき夏井川でも、小川江筋、愛谷江筋により水が運ばれています。水循環というと、雨が降り、山から川を流れ、海に注ぐのイメージですが、自然の力に加え、人の知恵と努力で文化が開けていること、先人に感謝の想いを寄せ、夏井川の水循環にワクワクしながら帰路につきました。

安積疎水土地改良区の皆様、福島県土地水対策室の皆様、ありがとうございました。



安積疎水の歴史説明



上戸頭首工と猪苗代湖



参加者(田子沼分水工)

<事業報告> ⑧第2回夏井川流域協議会(その1)

桶田隆司

夏井川水系河川整備計画の変更に係る意見聴取のため、10月6日と11月27日に「夏井川水系河川整備計画流域協議会」が開催され、夏井川流域の会を代表して出席しました。

夏井川水系の整備は、平成14年4月に河川整備計画が策定されて以降、計画区間の整備を進められてきましたが、令和5年の線状降水帯による洪水被害が計画区間外でも発生し、県はこの区

間の整備が必要と判断し、計画変更（改修区間の延長：新川 1.5km⇒3.9km、宮川 0.5km⇒3.0km）を行うものです。（詳細は、県の寄稿文（その2）を参照してください）

当会が発足したきっかけは、平成9年に河川法が改正され、第1条の目的に、治水、利水に加え、新たに環境の保全が追加されたこと、また河川整備計画の策定にあたっては、流域協議会を設置し、広く意見聴取を行うこととされました。この時の流域協議会メンバーが中心となって、「住民自らが流域の治水・利水・環境を考え、提案し、行動する」を趣旨として設立し活動を続けてきました。

今回の協議会ではこれまでの活動を踏まえ、住民目線で16の意見・質問を行いました。

第2回協議会では、当会の16の意見・質問、他委員の意見・質問に対する県の考えの説明がありました。協議会の最後に当会からは、「整備にあたっては、整備区間の住民だけでなく、下流域への説明や維持管理に対しても住民との意見交換の場を持つよう」提案し、整備計画変更案が承認されました。

当会は引き続き、「子どもたちの笑顔が見える夏井川」を目指して、県・市、地域の方との意見交換を行いながら、自らできる事を実践していきます。

＜事業報告＞⑧第2回夏井川流域協議会(その2) 福島県いわき建設事務所

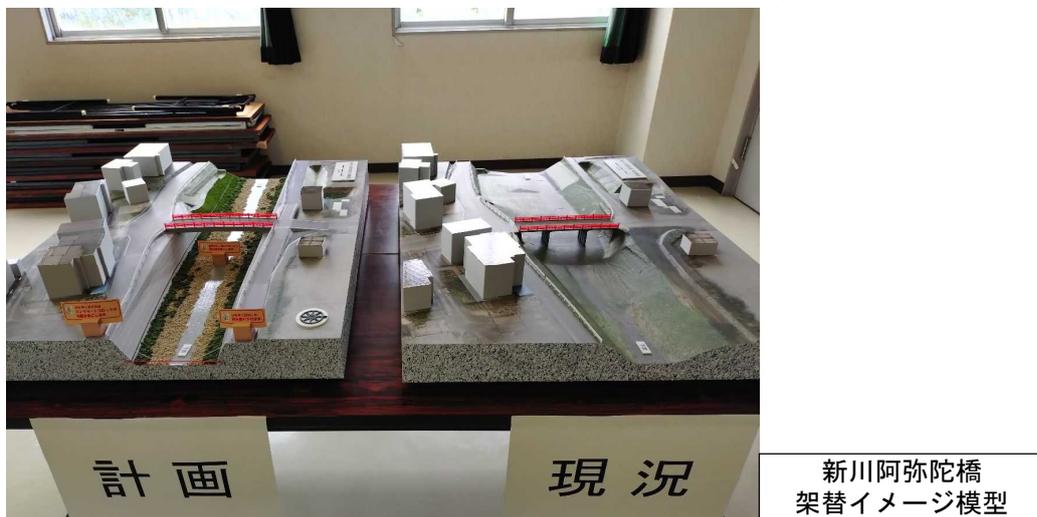
令和7年11月27日（木）に第2回夏井川水系河川整備計画流域協議会を開催しました。

このたびの河川整備計画変更は令和5年9月に発生した豪雨災害で甚大な被害を受けたいわき市内郷地区の河川改修を推進するために、新川・宮川の現行整備計画区間を延伸することに主眼を置いております。

第2回協議会におきましては、委員の皆様より「治水方式の検討」、「将来の維持管理」、「河川改修に伴う地域の繋がり確保」など様々な意見をいただきました。また第1回協議会を経た整備計画案について縦覧により住民の皆様からいただいた意見には、維持管理に対する担い手不足など、切実な課題があることを改めて認識いたしました。これらに対し、県の考えを委員の皆様へご説明のうえ議論いただき、河川整備変更案の承認を得る運びとなりました。

今後は、流域協議会での議論や住民の皆様からいただいた意見を反映させた「夏井川水系河川整備計画」の策定及び公表を行い、早期の事業着手を目指してまいります。

夏井川流域の会副代表の桶田さんにも委員として参加していただきました。ありがとうございました。



<事業報告> ⑨新川秋の植栽

阿部富枝

11月30日（日）新川秋の植栽に参加しました。

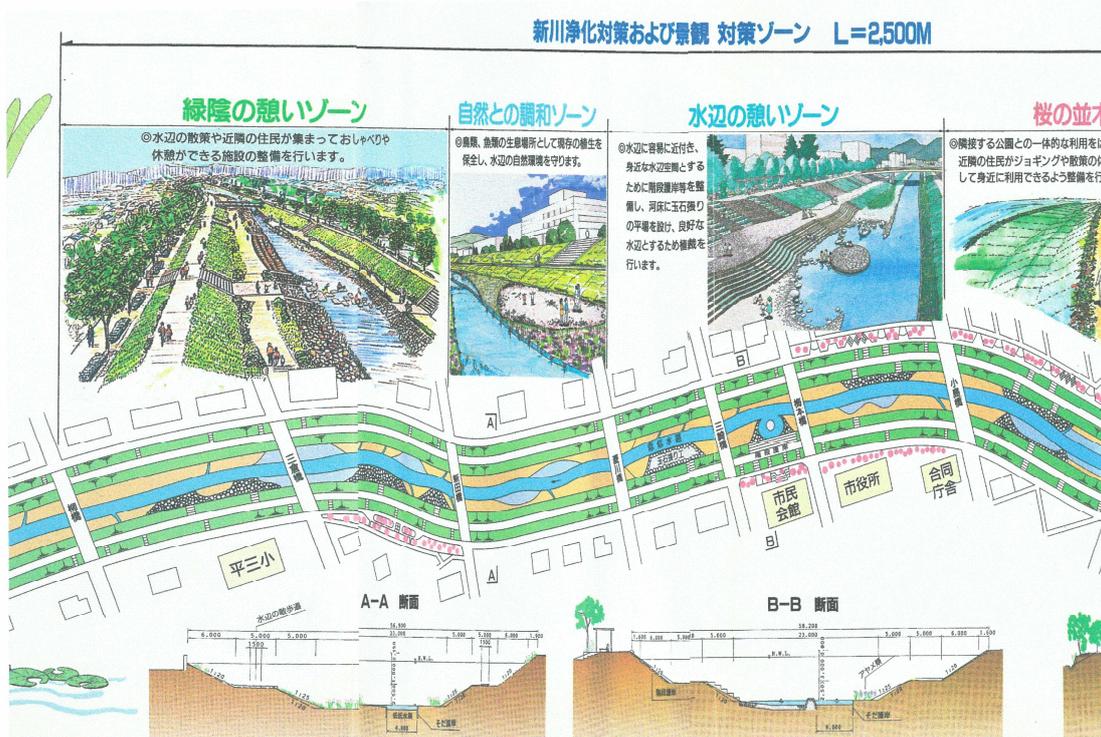
お花の植え方の指導の後に、それぞれの班に分かれて作業しました。パンジーやノースポール、葉ボタンなどの素敵な花壇になりました。寒いけど、元気に咲いて欲しいです。

植栽以外に草刈りチームも作り、新川の中に2m以上に伸びた草を草刈機で刈ってもらいました。近距離で4～5人がランダムに作業していたので、伸びた草で互いに見えなくて足など切られないかとハラハラしていました。来年は安全に作業して欲しいと思います。お疲れ様でした。

当会は1時間早めの8時に集合してひょうたん島周辺の泥をスコップで掻き出したり、水路を作ったり、階段の泥を撤去したりしました。毎年腰痛との闘いですが、ひょうたん島を気持ちよく利用して頂ければ幸いです。



今から20年程前に勤務先の上司から、市議員さんに会うので要望はないかい？と問われ、私は“新川の中がジャングルみたいで木がたくさん生えているのをどうにかして欲しいです”と答えたことを覚えています。そして20年が過ぎた今、私はスコップ片手に汗を流しています。☺



【参考】新川整備イメージ図（出典：新川を考える研究会 1997.7）

<事業報告> ⑩NPO いわき環境研究室発表会

橋本孝一

NPO 法人いわき環境研究室主催で、「環境活動発表会」が開催されました（12月13日午後、於：パルシステム福島みんなの交流館）。下記のような7テーマでの発表があり、約30名ほどの方が参加しました。

	発表タイトル	発表者
1	子どもたちの笑顔が見える夏井川をめざして	田中博文（夏井川流域NW事務局長）
2	地域の宝 ～ いわきの鳴き砂	桶田隆司（NPO法人いわき鳴き砂を守る会理事長）
3	生活協同組合パルシステム福島～環境委員会の活動	和田佳代子（パルシステム福島環境委員会委員）
4	付着藻類を活用した排水処理水からの栄養塩類除去の検討	松本称音（福島高専学生）、高荒智子（同教授）
5	いわき市内のナガエツルノゲイトウの生息状況と対策	吉田真弓（NPO法人いわき環境研究室）
6	ジオラマとワークシートの活用～アンケートで見た水防災の学習支援での子供たちの反応	和田隆（NPO法人いわき環境研究室監事）
7	児童向け脱炭素リテラシー学習とその学習支援～いわき市ゼロカーボン人づくり公民連携事業	原田正光（NPO法人いわき環境研究室理事長）

当会からは、田中事務局長から、当会の活動内容（①親水・調査活動：一斉水質調査、川下り、ウォーキング・サイクリング等、②環境学習支援事業：小学校学習支援、水辺教室）③地域交流事業：地区懇談会、広域交流（県内、全国）、④水辺保全事業（清掃活動、他）、⑤その他（会報、世話人会、後援会、他）等の紹介がありました。【写真右上】



また、当会の桶田代表は、「いわきの鳴き砂を守る会」の理事長も兼務しており、今回は、「いわきの鳴き砂」の会の活動内容（鳴き砂の生い立ち・いわき海岸の鳴き砂の特徴、会の調査活動、学校学習支援、いわき駅前でのプラージュ、砂絵教室、他）について紹介がありました。【写真右下】



和田佳代子さん、高荒智子さん、吉田真弓さんは、当会の会員でもあり、発表内容についても紹介したいのですが、ここでは、紙面の関係もあり、上表のタイトルの紹介にとどめさせていただきます。詳細は、いわき環境研究室のHPにアクセスしてみてください。

各発表は、質疑応答を含め20分でしたが、テーマ毎に活発な質疑応答がなされ、有意義な発表会だったと思いました。最後に、主催団体を代表して、原田理事長から「今回は、関連団体に発表の呼びかけをして実現しましたが、次年度以降もさらに輪を広げて実施していきたい」旨の提案がありました。次年度以降、さらに多くの活動内容の紹介を通じて、情報を共有し、お互いの励みになっていくよう期待したいと思います。

<事業報告> ⑪清掃(8月~12月)

田中博文

当会では、基本毎月第一土曜の朝7時30分から清掃活動(草刈、ごみ拾い、泥上げ等)を行っています。

清掃場所は、当会の事業を行っている場所、小学校環境学習支援を行っている場所を中心に、①夏井川河口サイクリング公園脇の親水広場、②夏井川河川防災ステーション周辺、③新川アリオス横のひょうたん島の3箇所のうちのいずれかを交互に実施しています。清掃活動は平成22年(2010年)から開始して、月に2回実施していた年もありましたが、さすがに高齢化で体に支障を来さないよう、毎月一回(極寒期の1月・2月は除く)を定例清掃として何とか継続しています。そのため、前回実施した場所は2~3ヵ月後となるので、草が伸びて元通り以上となり毎回四苦八苦しています。集めたごみは、少ない場合は個人で家庭収集日に出していますが、多い場合は市資源循環推進課に回収依頼しています。

会報前号(7/18)以降の8~12月の清掃活動は下表のとおりです。若い力(当会では60歳代まで若手、70歳代は中堅と呼ぶ)の応援をお願いします。

月日	区分	清掃場所	内容	参加者数	備考
7/26(土)	8月定例	夏井川防災ステーション	草刈・ごみ拾い	3名	防災水辺教室前準備
8/30(土)	9月定例	夏井川河口親水広場	草刈・ごみ拾い	6名	川下り前準備
10/4(土)	10月定例	新川ひょうたん島	土砂撤去・草刈・ごみ拾い	10名	
11/1(土)	11月定例	夏井川防災ステーション	草刈・ごみ拾い	9名	
12/3(土)	臨時	新川ひょうたん島	土砂撤去・草刈・ごみ拾い	7名	新川秋の植栽
12/6(土)	12月定例	夏井川河口親水広場	草刈・ごみ拾い	5名	



新川ひょうたん島



夏井川河口親水公園



夏井川河川防災ST



集めたゴミ(防災ST)

◆次回予定(令和8年) 午前7:30~(1時間半程度)

(1月・2月は極寒期のため中止です)

- ・3/7(土)【3月定例】新川アリオス横ひょうたん島 階段土砂撤去・ごみ拾い
- ・4/4(土)【4月定例】夏井川河川防災ステーション 草刈り・ごみ拾い

※1月・2月は中止予定ですが、豪雨で酷い場合は「臨時清掃」を行なう場合もあります。

※日時・場所が変わる可能性があるため、世話人または当ホームページで確認下さい。

※小雨決行ですが、雨天は中止です。

<コラム> 名誉会員佐藤忠さんを偲んで

橋本孝一

佐藤忠さんは、令和7年8月20日、95歳で生涯を閉じられました。当会設立から90歳の退会後も活動にご尽力いただいておりますが、ここ一年ほど、直接お会いする機会が持てなかったことが残念でなりません。今でも、忠さんの温厚な御姿が脳裏に浮かんでまいります。人生の大先輩でもあり、当会の世話人としても長い間、お力添えをいただいております。月一回の定例の会議や親水空間の草刈り等、いつも若輩の私達より早く会場に来られる御姿に励まされておりました。特に、夏井川下流の鎌田親水空間での「川下り」のイベントでは、子供たちに、笹船の作り方を熱心に伝えておられた姿が今でも印象に残っています。



笹船づくり指導 (2015. 9)



水辺教室支援 (2017. 6)



定例清掃 (2020. 12)

私は、忠さんと同じ平窪地区に住んでいた関係もあり、平窪地区の子供達に郷土に誇りを持ち、たくましく育てて欲しいとの趣旨で、一緒に「平窪自然塾」を立ち上げ、サバイバルキャンプやウォーキング等にも取り組みました。また、平4小児童の登下校の時間帯には、毎日、子供達の安全を守る活動も長い間続けてこられ、いつも若い世代への深い愛情を示してこられました。私は、忠さんより一回り若輩ですが、私も、忠さんのように、「前向きに余生を全うしたい」と決意を新たにしております。佐藤忠さんの御冥福をお祈り申し上げます。



名誉会員記念品 (2022. 5)
マグカップに永年お疲れ様でした。と会名

<助成報告>

「2024年度地域づくり基金」の助成金でビブス（多用途ベスト）45着を購入しました。パルスシステム生活協同組合連合会様には、3カ年にわたり資材倉庫、採水タンク、ライフジャケット等の支援を頂きまして有難うございました。

【ビブス：多用途ベスト】（右写真赤○印）

- ・ Lサイズ 15着
- ・ LLサイズ 20着
- ・ 3Lサイズ 10着 計 45着



<事務局より>

■「第7回夏井川沿いウォーキング」は雨天のため中止となりました

10月26日(日)に予定していた第7回夏井川沿いウォーキング(東北電力第二発電所～川前駅付近)は、雨天により中止となりました。

来年に再度企画し、ホームページで案内します。夏井川最上流を目指して歩きましょう。

■年会費の納入をお願いします

会報等の郵送料も上がっており、未納者の方は納付していただけますようご理解のほどお願いします。あわせて、新規会員の募集について周りの方々へお声かけなどご協力をお願いします。

■会報に記事を投稿してみませんか

当会は住民の立場で川に関して見て、考え、行動していこうとする会なので、皆様のご意見や希望等についての記事投稿をお待ちしています。どなたでも構いませんので、事務局または世話人へお知らせ下さい。但し、投稿頂いた記事は世話人会で内容精査してからの掲載となります。

■世話人会に参加してみませんか

当会は毎月第1火曜日に「世話人会」(18:30～)を開催し、事業の反省や今後の在り方など、いろいろな話し合いを行っています。会議時間は1時間程度で、誰でも参加できますので、是非ご参加ください。

1月から4月の会場は*いわき市文化センター*(いわき市平堂根町1-4)の会議室となります。但し、開催日も含めて変更となる場合がありますので、事務局または世話人へご確認下さい。

～～～ 会員の皆様からのご意見・御寄稿をお待ちしております ～～～
(活動報告・行事予定は下記ホームページでも案内しています)

【会報 第65号】 2026.1.8

発行 : 夏井川流域住民による川づくり連絡会
(略称:夏井川流域ネットワーク)

代表世話人: 桶田隆司

事務局 : 〒972-8311 いわき市常磐水野谷町亀ノ尾171地質内
田中博文 Tel)0246-88-8810 Fax)0246-88-8907

ホームページ : <http://blog.natsuigawa-karyu.net/> 夏井川流域で検索

